

## 第2回 部会検討結果報告書（行財政運営部会）

記録者	武澤 秀幸	場所	市役所北庁舎第1・2・3会議室		
開催日時・場所	平成26年8月20日（土） 午前10時00分～12時10分				
出席者 （9名）	栗原 昭良	小西 信生	澤田 浩宜	隆 宗男	
	吉武 考三郎	及川 慎也	武澤 秀幸	本木 祐輔	
	佐々 顕子				
傍聴者	名				

基本施策名	5 - 1 市民の参画意欲を高める市政運営
-------	-----------------------

今後（後期期間で）予想される新たなニーズ・課題（ウ）について

### 施策78：広報活動・情報公開の充実

- ・市政に無関心な層への対策が課題になってくる。
- ・広報紙は新聞と一緒に配られるが、若い人達はそもそも新聞を取っていない。
- ・議会報は全戸配布されているが、広報紙はされていない。
- ・駅などに置かれている広報紙は、すぐに無くなっている。
- ・どうしても広報紙を読ませたいのならば、何かの懸賞などのメリットを付けることも一つの案として考えられる。
- ・広報紙について言えば、カラー化は良かったと思う。ただし、せっかくカラーにしたのだから、記事のカテゴリーごとに色を変えるなどの工夫を加えれば、読む人にとって一層分かりやすく読みやすい広報紙になるのではないかな。
- ・他市などでも、広報紙を手にとってもらうための努力をしていると思う。今の時代を考えれば、メールやスマートフォンを活用した広報のニーズが高いのではないかな。
- ・広報紙について言えば、紙面に限られているためだと思うが、特に団体からのお知らせや募集のコーナーは、改行もされておらず記事を詰め込みすぎで、読み辛い。
- ・広報紙については、伝え方にも課題があると思うが、そもそもコンテンツ自体が読まない方々の関心を掴む内容になっていないということが問題なのではないかな。

### 施策79：広聴活動の充実

- ・市長と語る会については、自治会や保護司会など対象が固定化されている。
- ・そういう団体の出席者は動員されて出席しているのか。本当に何かを伝えたいという人が応募しているのか。企業の株主総会でも、お土産をなくしたら参加者が激減したという事例がある。
- ・ランチミーティングなど、少しリラックスして意見交換できる場があると良い。
- ・市民に対して意識調査やパブコメを実施した後に、どのように活用・反映したのかが分からないことが課題だと思っている。意見を出したことの成果が見えないと、市政に参画するモチベーションが落ちてしまう。
- ・市長への手紙については、単純に増えることを望んでいるのかが分からない。純粋な私怨もかなり含まれているのではないかな。
- ・提出者の了解を得た上で、手紙の内容と対応を公表しても良いのではないかな。

## 後期基本計画策定に向けた見直しの論点（H30～33年度）（エ）について

### 施策78：広報活動・情報公開の充実

・広報活動にどれだけお金を掛けても良いという状況ではないと思うので、費用対効果をはっきりさせる必要がある。何十億も払えばテレビで府中市のCMや番組も放映できるだろう、そこまでの必要性はないと思う。

### 施策79：広聴活動の充実

・市民の声を拾う上で、市長と語る会は市長によるヒアリングという意味で有効だと思う。これをもう少し拡大して、副市長や幹部職員が出張して市民にヒアリングする機会があっても良いのではないか。

・私も部長職が話を聞く公聴会をもっと増やしてほしいと思っている。市長に限らなければ、開催回数や開催場所をもっと増やせるのではないか。場合によっては、部長職の方がその場で答えられる質問もあるかもしれない。

・回数をあまり増やすと負担が大きくなるのではないか。また、個別具体的な内容は担当者に聞けば済むことだと思う。ただし、大きな考え方や方向性ならば、幹部職員が対応することにも意味はある。

### その他：市民協働

・今の若い方は市政に無関心だが、自治会活動に参加してもらえれば、文化センターに行って地域と繋がる機会にもなる。今の文化センターは、子ども連れの母親と高齢者しか利用していない。自治会活動をきっかけとして市政に関心を持ってもらいたい。

・特にマンションの住民はほとんど関心がないという印象がある。

・防災はどんな世代でも真剣に考えなければいけないテーマなので、無関心な層の関心を地域に引き付けるきっかけになるかも知れない。

## 協働の実践に向けて（オ）について

### 施策78：広報活動・情報公開の充実

・市や警察からの情報がメールに届くサービスに登録しているが、特に新聞を取らず広報紙を読まないような若い世代には、こういったサービスで広く情報を届けてもらいたい。

### 施策79：広聴活動の充実

・市民と市が協働するという趣旨のこの会議も、市民の方は20代・30代はほとんどいない。市政への関心も時間も無いのだろう。先ほども若い世代に対する様々な意見が出たが、我々は若い人達とずれた感覚で議論してしまっているかもしれない。改善するためには、動員をかけるしかないのではないか。

・無作為抽出のアンケートを実施して、その中で回答のあった若い世代の方を対象として、このような会議に参加してもらうことはできないか。また、企業に対しても公休を認めるように市から要請できないか。

・突飛な案だが、例えば会議に参加すれば10万円が貰えるならば、これまで参加していなかった層の市民が会議に出てくるかもしれない。

・市内には大学が多いので、その学生にアプローチするというのもアイデアの一つとして考えられないか。また、10代ならば私立・公立の高校に声を掛けてみても良いかもしれない。ただし、学校に頼ると多忙な教員に更に負荷をかけることになりかねないので、地域の人が自ら動くという姿勢が大事だと思う。

・30代の子育て世代の声も聞きたいが、余裕が無いのだろう。

・この会議でもそうだが、会議中に子どもを預ける体制が整っていないので、仮に意欲があっても参加できない。本庁の会議室は、託児が必要な方は参加できない環境になってしまっている。

・市長と語る会は対象が特定の団体に絞られていると言ったが、改善策として、例えば初回は自治会長の孫に参加してもらい、次回は孫世代の参加者が別の友達に声をかけて参加してもらうなどの取組をすれば、普段とは違うルートで若い世代を集められるのではないか。

#### その他：市民協働

- ・ J A Z Z in 府中やよさこいなど、若い方が積極的に参加しているイベントもある。
- ・ 市政や地域のことについて、若い世代の楽しみや遣り甲斐と上手に結び付けられた時には、動員や金銭面の誘引が無くても自然と若い方の参画が実現されるのだと思う。
- ・ 自治会加入率が6割を切る状況の中で、マンションが建設される際に地元代表として事業者と交渉を行い、自治会加入をマンション購入時の努力義務にしてもらうような取組を行っている。市としても、法令による義務付けはできないだろうが、まちづくりの観点から努力義務となるような対策を行ってもらいたい。
- ・ 集合住宅にコミュニティ広場を設けさせるような市の指導があっても良いかもしれない。何戸以上なら広場や部屋を開放するとなれば、協働の拠点になるのではないか。
- ・ 府中市は本当に施設に恵まれているので、わざわざ個人や民間がスペースを提供しなくても、利用できる部屋や場所が充実していると思う。